

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

一人ひとりの生徒を大切に、豊かな人間性と確かな学力、課題解決能力を育み、地域との連携を推進しながら、地域で活躍するリーダーを輩出する学校

1. **確かな学力と課題解決能力**（基礎的な知識や技能を習得し、それらを活用して自ら考え実践を通じて深く学び、表現する力）を育む学校
2. **豊かな人間性**（自分だけでなく他人の大切さを認め、互いに助け合い、よりよい社会を創っていく責任感と規範意識を持ち、自律して社会を支える力）を育成する学校
3. **地域連携**（地域とともに、「学び」、「歩み」、地域に貢献し、地域から信頼される）を推進する学校
4. **次世代リーダー**（チャレンジ精神とリーダーシップ力を持ち、自主的・積極的に学校での諸活動やボランティア活動などの体験に取り組む）を育成する学校

2 中期的目標

1 「確かな学力」と「学び」への主体性の育成

（1）新たな大学入試制度に対応するとともに、次期学習指導要領を見据えた教育課程の編成と授業の充実を図る。

- ア 主体的で対話的な深い学びの実現をめざす。
- イ 習熟度別授業、少人数授業の効果的な運用を図る。
- ウ 専門コースの授業内容の点検改善を図り、新学習指導要領への円滑な実施をめざす。
授業アンケート（2回）の学校平均 3.20（R1年度 3.17 H30年度 3.18 H29年度 3.18）をめざす。

2 知・徳・体の調和のとれた教育をとおし、豊かな人間性をはぐくむ

（1）規範意識醸成のため、あいさつ運動やマナー向上の全校的取組みを推進する。

- ア 家庭との連携のもと、全教員での遅刻指導に取り組む。
- イ 生徒会などと連携した朝の「おはよう」運動と日常の学校生活における挨拶を奨励する。
- ウ 「心の教育」を充実させ、ルール、マナーの遵守を求めていく。

（2）生徒一人ひとりが安心して安全な学校づくりをめざす

- ア 教育相談体制を充実させるとともに、教職員と家庭が緊密な連携、情報共有を行う。

（3）豊かな人間性の形成に寄与する人権教育を展開する。

- ア 身近な事柄を通して、生命の尊さへの気づきや思いやりの心など豊かな人間性を身に付けさせる。
学校教育自己診断における「挨拶をする」生徒の割合 80%以上（R1年度 76.2% H30年度 84.9% H29年度 83.2%）、「相談できる先生がいる」生徒の割合 65%以上（R1年度 59.4% H30年度 62.2%（質問新設））、「人権について学ぶ機会がある」生徒の割合 75%以上（R1年度 69.4% H30年度 74.7% H29年度 71.2%）をめざす。

3 「志」や「夢」をはぐくみ、自己実現の達成を図る

（1）進路目標設定から進路実現まで3年間を見据えたキャリア教育を展開する。

- ア 生徒の進路実現に向けた進路指導體制を構築して、講習・補習などの手厚い学力支援体制を確立するとともに、キャリア教育の一環として漢字検定、英語検定、パソコン検定等に生徒がチャレンジすることを一層促進する。
- イ 近隣大学（四天王寺大学・関西福祉科学大学等）や関係機関等との連携を通して、生徒が進路意識を高め、進路実現のための学習や体験ができる機会を確保する。
進路未決定者を3%未満（R1年度 4.0% H30年度 3.4% H29年度 8.3%）に減少させる。

4 地域と連携した魅力のある学校づくり

（1）地域、学校教育活動に関連した関係諸機関との連携を学校の教職員・生徒があらゆる場面で充実させていく。

- ア 広報活動を強化し、本校の魅力を広く周知するよう努める。
- イ PTA や NPO 等と連携し、地域の福祉活動・環境保全活動に取り組む。
- ウ 地域の外部人材や施設を活用し、体験的な授業や講座を開催する。
学校教育自己診断における「大学の先生をはじめとして外部の先生から授業を受けたり話を聞く機会がある。」生徒の割合 75%以上（R1年度 70.6%）をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「確かな学力」と「学び」への主体性の育成	<p>(1) 基礎的な学力の定着と主体的で対話的な深い学びをめざした授業改善の取組みを推進する。</p> <p>ア 授業などの学習指導方法の工夫と改善を進める</p>	<p>ア 教師の指導力の向上を図る 企画会議、授業改善委員会、サービ スラーニング委員会 (SL 委員会) が中心となり から 組織的に 取り組む 授業改善 年間2回の授業公開、全教科による 研究授業の実施などにより、自らが 積極的に授業改善に取り組む組織 を構築する 授業アンケートの実施とその分 析及び課題解決</p> <p>校内教職員研修の充実 ICT 活用研修 経験の少ない教員に対する研修 ・経験の豊かな教員、指導教諭に よる個別研修・進路指導研修 専門コースの充実 ・専門コース科目の実践 ・外部機関と連携した保育実習 ・高大連携授業や外部講師の活用等 専門コース科目「サービ スラーニング基礎・実践」など、専門コース の科目編成、内容の点検・改善 働き方改革の促進 授業の ICT 活用とともに、校務の ICT 化をはかる。</p>	<p>ア</p> <p>授業アンケートによる肯定的評 価学校平均 83%以上 (R1 年度は、2 回平均 81.4%)</p> <p>・学校教育自己診断「先生は、他の先 生の授業を見学に来る」生徒の 割合今年度以上 (R1 年度 50.5%)</p> <p>・学校教育自己診断「授業はわかり やすい」生徒の割合 75%以上 (R 1 年度 69.1%)</p> <p>校内研修の実施回数の達成度 (R 1 年度は 7 回実施、上回るこ とが目標)</p> <p>学校教育自己診断「授業で自分 の考えをまとめたり、発表 する機会がある。」生徒の割合 今年度以上 (R1 年度 66.3%)</p> <p>ICT 活用率の向上 学校教育自己診断「ICT を活用 し、わかりやすい授業をめざし ている」(R1 年度 79.6%)</p> <p>・ICT 活用率の向上 (R2 年度学校 教育自己診断の項目を一部修正し て、検証・分析する)</p>	
2 知・徳・体の調和のとれた教育をとおし 豊かな人間性をはぐくむ	<p>(1) 豊かな人間性の涵養</p> <p>ア 生徒一人ひとりに生 き方あり方を探求させ、 豊かなことと規範意 識を醸成させる</p>	<p>ア 規範意識の醸成 あいさつ励行</p> <p>個に応じた遅刻指導、身だしなみ指 導 毎朝の「おはよう運動」、年3回のあ いさつ週間 (各1週間) を実施。 遅刻生徒については、放課後の指導な ど、生徒指導部を中心に、組織的に指 導する。 教育相談体制の充実 隔週に教育相談委員会を開催し、生徒 情報の共有化に努める。さらに学年団会 議や職員会議等で全教員が情報を共有 する。 あらゆる教育活動の場において、人 権感覚を育成する。特に「いじめへ の対応」の学校信頼度を上げるとと もに、「人権尊重の大切さについて 学ぶ」機会を増やす。</p>	<p>ア</p> <p>学校教育自己診断における「挨拶 をする」生徒の割合の向上 (R1 年度 76.2%) 生徒の年間遅刻総数減らす (R1 年度 2500)</p> <p>学校教育自己診断における「相談 できる先生がいる」生徒の割合の向 上 (R1 年度 59.4%)</p> <p>学校教育自己診断で「人の生き 方・命の大切さ・社会のル ールを学ぶ機会がある」生徒の割合 の向上 (R1 年度 72.2%)</p>	
3 「志」や「夢」をはぐくみ、 自己実現の達成を図る	<p>(1) 3年間を見据えたキ ャリア教育の推進</p> <p>ア 自己(進路)実現に向 けた進路指導の充実</p>	<p>ア 生徒の進路意識の高揚や、自己(進 路)実現の達成 効果的な進路関係行事の実施計画 進路体験行事、懐風館セミナー 大学 等の出前講義 等の実施</p> <p>補習や進学講習などの機会を充実 させる 教育産業とも連携しながら、生徒 の希望進路の実現に向けた意識を 高める</p>	<p>ア</p> <p>学校教育自己診断で「進路につ いての情報提供がされている」 生徒の割合の向上。(R1 年 度 80.6%)</p> <p>学校教育自己診断で「放課後や早 朝の補習や講習に参加している」生 徒の割合の向上 (R1 年度 28.5%)</p>	

<p>4 地域と連携した魅力のある学校づくり</p>	<p>(1) 地域密着型高校として広報活動と学校の魅力の発信 ア 中学校訪問、学校説明会等広報活動のさらなる充実</p> <p>(2) 地域と連携した取り組みの推進 ア 外部機関と連携した教育活動の推進</p>	<p>(1) ア ・専門コースの設置や学校の様々な取り組みを、中学生や保護者に周知する スライド DVD、WEB を活用して、広報活動の充実をはかる 中学校訪問や学校説明会(部活動体験・授業体験・学校体験等)を充実させる</p> <p>(2) ア ・地域と連携して、福祉ボランティア体験活動を実施する</p>	<p>(1) ア ・中学校訪問回数や説明会等への参加者数を維持する。(R1年度中学校訪問 128 回 R1年度説明会(本校実施)参加者数 370 名) ・HPの更新数を昨年以上とする。(R1年度HPの更新回数 82 回)</p> <p>(2) ア ・福祉ボランティア諸活動の参加生徒数前年度より上回る。</p>	
--------------------------------	---	--	---	--